

III 一～五類全数把握感染症

一～五類全数把握感染症

1. 一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

2. 二類感染症

結核以外の二類感染症は全国、大阪府ともに発生はなかった。尚、結核については、下記ホームページを参照されたい。

(財) 結核予防会結核研究所 疫学情報センター : <http://jata.or.jp/rit/ekigaku/>

(文責 : 中川)

3. 三類感染症

● コレラ

平成 21 年のコレラの届出数は 1 例であり、平成 20 年は 1 例であった。推定感染地域はインドであった。

● 細菌性赤痢

平成 21 年の細菌性赤痢の届出数は 5 例であり、平成 20 年の 22 例、平成 19 年の 58 例に比べて大幅な減少傾向にある。

菌種別ではソンネが 3 例、フレキシネルが 2 例、推定感染地域は、インドが 3 例、国内が 2 例であった。

● 腸チフス

平成 21 年の腸チフスの届出数は 2 例であり、平成 20 年は 5 例であった。推定感染地域はインドネシア 1 例、国内が 1 例であった。

● パラチフス

平成 21 年のパラチフスの届出数は 1 例であり、平成 20 年は 2 例であった。推定感染地域はバングラデシュ 1 例であった。

コレラ

月 週	1月					2月				3月					4月					5月				6月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
大阪府																											
大阪市																											
堺市																										1	
高槻市																											
東大阪市																											
合計																										1	

細菌性赤痢

月 週	1月					2月				3月					4月					5月				6月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
大阪府																											
大阪市																										1	
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
合計																										1	

腸チフス

月 週	1月					2月				3月					4月					5月				6月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
大阪府																											
大阪市	1																										
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
合計	1																										

パラチフス

月 週	1月					2月				3月					4月					5月				6月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
大阪府																											
大阪市																											
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
合計																											

腸管出血性大腸菌感染症

月 週	1月					2月				3月					4月					5月				6月			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
大阪府																							2	2	1	1	
大阪市																							2	1	3	1	
堺市			2	2			1	1				1							1								
高槻市																										1	
東大阪市															1									1			
合計			2	2			1	1		3	2							1			2	4	3	4	1	4	

7月					8月					9月					10月					11月					12月					合計
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53				
																												1		
																													1	
																													1	
																													1	

7月					8月					9月					10月					11月					12月					合計
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53				
																												3		
									1																			2		
																													1	
																													5	

7月					8月					9月					10月					11月					12月					合計
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53				
																												2		
									1																			2		
																													1	
																													1	

7月					8月					9月					10月					11月					12月					合計
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53				
																												1		
																												1		
																													1	
																													1	

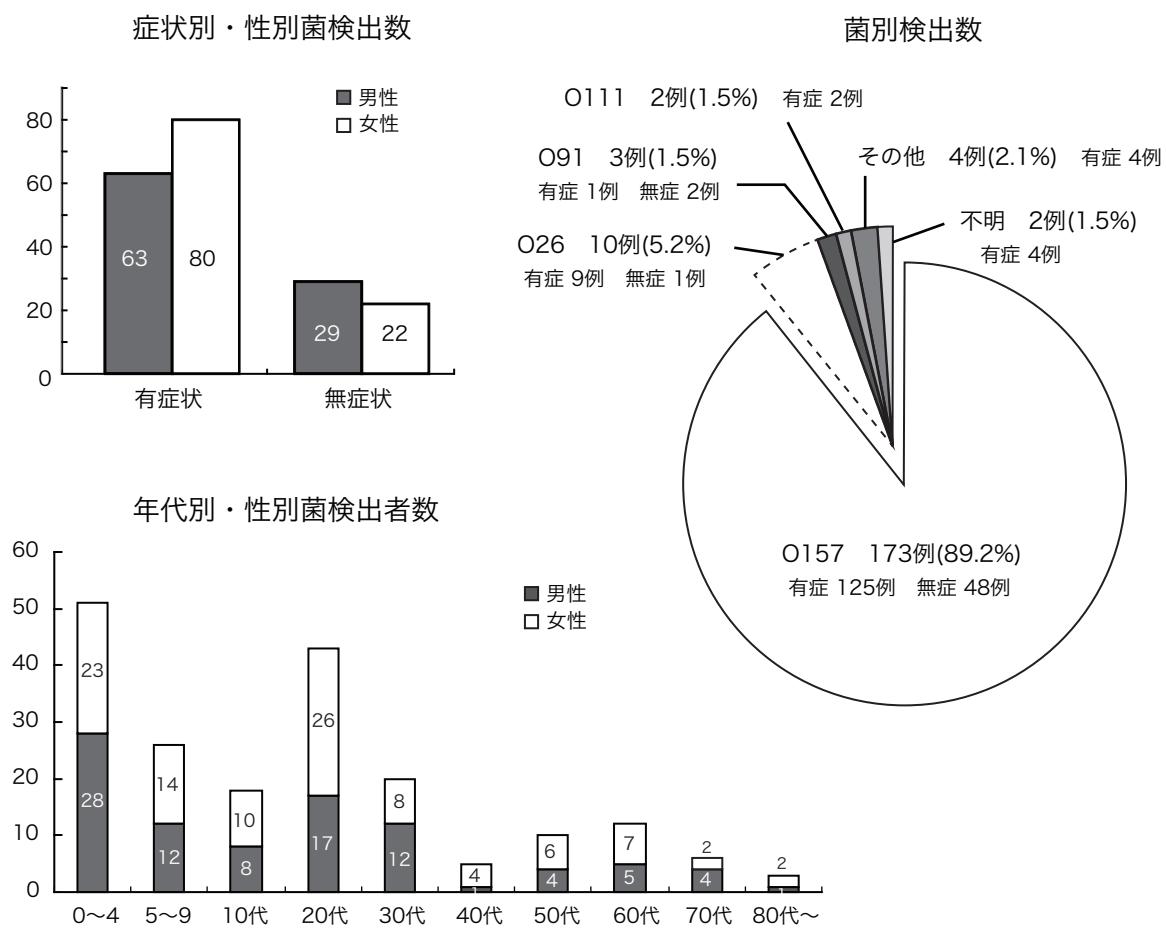
7月					8月					9月					10月					11月					12月					合計
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53				
6	6	5	2	3	8	4	1	4	4	5	6	1	3	2	2	1	3	7	4	2	4	1					91			
1	3	3	5	2	1	3	2	5	4	2	10	3	2	3				1			1	1					64			
		1	1		1			1	1				1	1		1											15			
1	1	1	1			2	3					1	1		1												3			
1								1	1									1									6			
8	11	10	9	5	10	7	5	13	10	8	16	5	7	4	2	3	1	4	8	4	2	5	1	4	1	1	194			

● 腸管出血性大腸菌感染症

平成21年の腸管出血性大腸菌感染症の届出数は194例であり、平成20年の届出数245例に比べ大幅に減少している。

菌型別ではO157が173例(89.2%)、O26が10例(5.2%)、O91が3例(1.5%)、O111が2例(1.5%)、その他が4例(2.1%)、不明が2例であった。

また、症状別では有症状者が143(73.7%)、無症状病原体保有者(以下、無症状者)が51例(26.3%)であった。菌型別有症・無症状者数はO157では有症状者が125例(64.4%)、無症状者が48例(24.7%)、O26では有症状者が9例(4.6%)、無症状者が1例(0.5%)、O91は有症状者が1例(0.5%)、無症状者が2例(1.0%)、O111は有症状者が2例(1.0%)、無症状者が0例(0%)、その他は有症状者が4例(2.1%)であった。



性別では、男性 92 例 (47.4%)、女性 102 例 (52.6%) であった。

症状別・性別菌検出者数は有症状者が 143 例では男性 63 例(32.5%)、女性 80 例(41.2%)、無症状者 51 例では男性 29 例 (14.9%)、女性 22 例 (11.3%) であった。

年齢別では 0～4 歳が 51 例、5～9 歳が 26 例で全体の 39.7% を占める。

年齢区分別・性別菌検出者数は 0～4 歳の 51 例では男性 28 例・女性 23 例、5～9 歳の 26 例では男性 12 例・女性 14 例、10 歳代の 18 例では男性 8 例・女性 10 例、20 歳代の 43 例では男性 17 例・女性 26 例であった。

都道府県別でみると、届出数の多い順に福岡県、東京都、愛知県、大阪府となっている。

月別患者保菌者届出数をみると、届出数が無い月はなかった。多い順に最多は 7 月の 43 例、第 2 位は 9 月の 39 例、第 3 位は 8 月の 35 例で全体の 60.3% を占めている。

なお、死亡事例については、大阪府で 1 例あり、平成 19 年には、大阪市で 1 例あった。

(文責：澤口)

4. 四類・五類感染症（全数把握分）

平成 21 年における四類・五類感染症の届出数は、19 疾患 650 例であった。平成 20 年の 19 疾患 1,033 例に比べると、疾患数は同数であるが届出数が 383 例 (37.1%) 減少した。四類感染症の届出数は 6 疾患 78 例であった。前年に比べ疾患数は同数であるが、届出数が 13 例 (14.3%) 減少した。増加したのは A 型肝炎で 10 例の届出があり、前年の 9 例に比べ 1 例 (11.1%) の増加である。デング熱は前年 10 例であったが 15 例 (50.0%) に増加した。マラリアは前年 2 例であったが 8 例 (300.0%) に増加した。減少したのはレジオネラ症で 41 例の届出があり、前年の 68 例にくらべ 27 例 (39.7%) の減少である。前年届出の無かったオウム病 3 例、日本脳炎 1 例の届出があった。

五類感染症の届出数は 13 疾患 562 例であった。前年に比べ疾患数は同数であるが、届出数が 380 例 (40.3%) 減少した。増加したのは急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎をのぞく）で 58 例の届出があり、前年の 35 例に比べ 23 例 (65.7%) の増加である。バンコマイシン耐性腸球菌感染症は前年 3 例であったが 7 例 (133.3%) に増加した。減少したのはアメーバ赤痢で 88 例の届出があり、前年の 104 例に比べ 16 例 (15.4%) の減少である。後天性免疫不全症候群は前年 244 例であったが 230 例 (5.7%) に減少した。麻しんは 57 例の届出で、前年の 392 例に比べ 335 例 (85.5%) と大きく減少し、本年の届出数の大幅な減少の要因となっている。

平成21年 四類・五類全数把握感染症

類別	疾患名	届出数		大阪府内計	全国計
		届出数	()		
四 類	E型肝炎	0	(1)	54	(43)
	A型肝炎	10	(9)	114	(170)
	エキノコックス症	0	(0)	25	(17)
	オウム病	3	(0)	21	(9)
	Q熱	0	(0)	2	(3)
	コクシジオイデス症	0	(0)	2	(2)
	つつが虫病	0	(0)	445	(434)
	デング熱	15	(10)	92	(104)
	日本紅斑熱	0	(1)	125	(132)
	日本脳炎	1	(0)	3	(3)
	ブルセラ症	0	(0)	2	(4)
	ボツリヌス症	0	(0)	0	(2)
	マラリア	8	(2)	56	(57)
	野兎病	0	(0)	0	(5)
	ライム病	0	(0)	7	(5)
	レジオネラ症	41	(68)	689	(884)
	レプトスピラ症	0	(0)	15	(42)
四類合計		78	(91)	1,652	(1,916)
五 類	アメーバ赤痢	88	(104)	769	(861)
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎をのぞく)	18	(29)	212	(236)
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎をのぞく)	58	(35)	493	(182)
	クリプトスボリジウム症	1	(1)	17	(9)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	8	(9)	140	(148)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	(8)	103	(111)
	後天性免疫不全症候群	230	(244)	1,417	(1,532)
	ジアルジア症	10	(9)	74	(75)
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	(1)	10	(10)
	先天性風しん症候群	0	(0)	1	(0)
	梅毒	61	(83)	676	(823)
	破傷風	6	(0)	112	(120)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	7	(3)	117	(80)
	風しん	12	(24)	147	(303)
	麻しん	57	(392)	741	(11,015)
	五類合計	562	(942)	5,029	(15,495)
	合計	650	(1,033)	6,681	(17,411)

()内は平成20年のデータ

疾患名	大 阪 府 内 再 掲				
	大阪府	大阪市	堺市	東大阪市	高槻市
アメーバ赤痢	19 (34)	59 (62)	5 (3)	3 (3)	2 (2)
ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎をのぞく)	6 (8)	11 (17)	0 (4)	1 (0)	0 (0)
後天性免疫不全症候群	25 (29)	192 (195)	7 (9)	4 (3)	2 (8)
梅毒	10 (11)	46 (60)	4 (6)	0 (4)	1 (2)

()内は平成20年のデータ

五類感染症の主な4疾患、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（A型とE型を除く）、後天性免疫不全症候群、梅毒について、大阪府内を大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市に区分して再掲した。アメーバ赤痢は、堺市が3例から5例に増加したが、大阪府が34例から19例に、大阪市が62例から59例に減少した。ウイルス性肝炎と後天性免疫不全症候群は、東大阪市を除くすべての府市で減少した。梅毒はすべての府市で減少した。

全国の平成21年の届出数をみると、6,681例で前年の17,411例より大きく減少した。増加した疾患は、オウム病、急性脳炎、クリプトスピリジウム症で、それぞれ9例から21例(133.3%)、182例から493例(170.9%)、9例から17例(88.9%)に増加している。減少したのはレプトスピラ症、麻しん、風しんで、特に麻しんは741例の届出で、前年の11,015例に比べ10,274例(93.3%)と大きく減少している。

● 麻しん

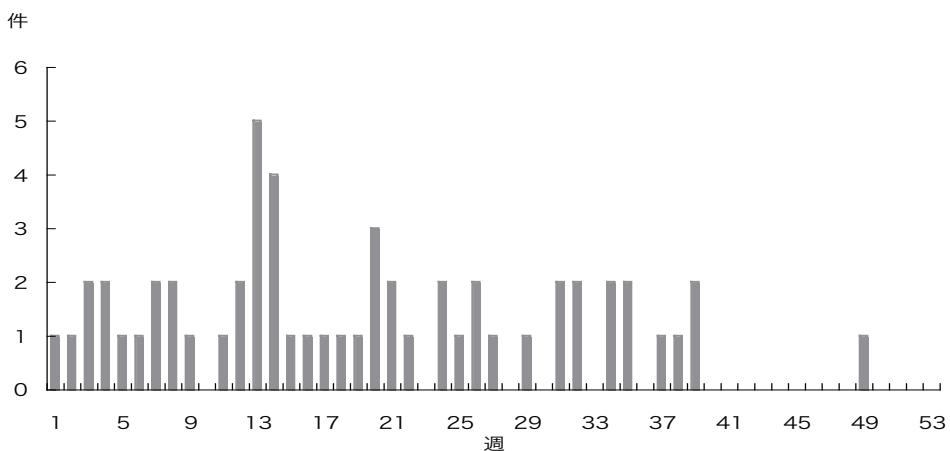
麻しんは平成20年1月1日より五類全数把握感染症に指定された。

平成21年の届出数は57例で、前年の392例に比較して85.5%減であった。大阪市27例、堺市8例、泉州7例、豊能5例、中河内・南河内3例、三島・北河内2例であった。

週別届出数は第13週が5例と最も多く、第14週が4例、第20週が3例であった。第3週、第4週、第7週、第8週、第12週、第21週、第24週、第26週、第31週、第32週、第34週、第35週、第39週は2例の届出で、第41週以降は第49週を除いて届出がなかった。

年齢別届出数は20歳以上が20例(35.1%)、12か月未満が19例(33.3%)、1歳が

麻しん週別届出



麻しん ブロック別・年齢別表

ブロック	6か月 未満	12か月 未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20歳以 上	合計
豊能	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
三島	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
北河内	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
中河内	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
南河内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
堺市	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	8
泉州	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	7
大阪市	0	3	5	5	1	0	0	1	0	0	0	2	1	9	27
合計	0	7	12	7	2	0	0	2	0	0	0	4	3	20	57

7例（12.3%）、10歳～14歳が4例（7.0%）、15歳～19歳が3例（5.3%）であった。

1歳以下の乳幼児が26例で全体の45.6%を占めた。

予防接種の普及もあり患者数が大きく減少している。2012年の麻しん排除に向けて、臨床診断のみならず検査確定診断を併用した届出が必要と思われる。

（文責：田中）

● 新型インフルエンザ

新型インフルエンザについては、P 22を参照されたい。

（文責：高橋）